

協豊会関西地区 講演会を開催しました

12月21日(水)協豊会関西地区分科会活動の一環として、住友クラブ大阪において講演会を開催しました。講師として、(株)トヨタマーケティングジャパン プロモーション室の河崎グループマネージャーをお招きし、「トヨタの最近の広告について」また、川崎重工業(株)牧村顧問(前常務取締役)をお招きし、「川崎重工の研究開発マネジメント」についてご講演頂きました。従来に比べ昨今のお客様、特に若者や女性の嗜好に変化が見られる中、広告づくりもその変化に追随していく必要があるとのことで、日々のご苦労話など普段では知ることのできない内容や、研究開発のチームマネジメント活用に関する内容に、40名を超える参加者一同たいへん有意義な時間を過ごすことができました。

○ご講演の概要

<(株)トヨタマーケティングジャパン 河崎グループマネージャー「トヨタの最近の広告について」>

(1) 広告づくりにおける課題

① お客様の興味関心の変化

特に若者や女性の間でクルマへの興味が低下。

代わりにケータイ・スマホへの興味が常にトップを占める状況となっている。必然クルマ広告に関する興味も薄れてきている。

② お客様の購買行動の変化

従来、気になるクルマがあればまず「店舗」に足を運んだが、現在はまず「デジタル上(PC・スマホ等)で検索」し調べ尽くしてから店舗へ行く、という行動パターンになっている。

③ お客様の情報取得方法の変化

過去約20年間でTVの視聴率が低下。若い人ほどケータイやスマホの接触時間が多くなる傾向。

(2) デジタル戦略の展開

前項のお客様の変化に追随するため、PC・スマホを通じたデジタルコミュニケーションの必要性。

「共感して興味を持ってもらう」、「共有(シェア)、拡散してもらう」ことがその対策の一つ。

<キャンペーン事例紹介>

・「Baseball Party」

あえてTVCMとはせずネットだけで紹介。口コミにより拡散、大きな反響を呼んだ。

・「Loving Eyes」

娘の成長を見守る父親と、反発しながらもやがて父親の深い愛に気付く娘を描き、多くの共感を生む。

・「Voxy」

父親と息子が一緒に過ごす時間。実はあっという間で短いこの時間を大切にしたい、というほろ苦い親子の関係を描き、同世代の父親の共感を呼んだ。



<河崎グループマネージャーによるご講演>

その他、若者が振り向くコンテンツの中でクルマを表現した「PRIUS! IMPOSSIBLE GIRLS」やトヨタ自動車の社内的にも実は衝撃的であったという「Pink CROWN」、さながら映画プロモーション映像の様な「ハリヤー」のTVCM等、多数のキャンペーン事例を紹介頂き、それぞれに込められたトヨタ殿の想いや製作に当たってのご苦労をお聞きすることができました。

<川崎重工業(株) 牧村顧問 「川崎重工の研究開発マネジメント」>

牧村顧問は、川崎重工の技術トップとして研究開発マネジメントに取り組んでこられました。

(1) チームで新製品を開発

各事業部門と技術開発本部が事業戦略、市場環境、課題を共有し、事業部門の設計・生産部門と技術開発本部の専門家が連携して、開発をスピードアップさせる。

(2) 技術の横通し

様々な開発課題に対して、複数の専門家がチームで取り組み、課題を解決

- ・航空機のアエロダイナミクス設計を活用し、モーターサイクルの空気抵抗を最小化。
- ・「新素材」炭素繊維複合材 (CFRP) を活用し、鉄道車両の圧倒的な軽量化を実現。
- ・モーターサイクルエンジンの燃焼シミュレーション技術を活用し、世界最高の発電効率を持つガスインジン発電機を開発。
- ・ガスタービンの超高速回転技術を活用し、モーターサイクルに特化した小型・軽量の過給器を開発。

(3) 多様な技術の組み合わせ

複数の技術のスペシャリストが協力することで、多律背反の難しい技術課題を克服し、最適解を得ると共に、開発の効率向上を達成する。

(4) エネルギーの将来に向けた取り組み

水素社会の実現に向けて、オーストラリアから水素を液体で輸送し貯蔵する。液化水素で輸送する事で、体積は 1/800 となる。
技術実証のため、神戸市と連携しポートアイランドに基地を建設し、東京オリンピック (2020 年) に向けて実現性を技術実証中。

(5) 異なる3つの視点で研究開発を実施

- 《あす》…「新製品・新事業」の開発 (次期モーターサイクル、低コスト車両、LNG 燃料推進船、将来航空機)
- 《あさって》…「将来基盤技術」の育成・強化 (革新生産技術、機電一体技術、先進駆動技術)
- 《しあさって》…「将来事業コア技術」の開発 (水素プロジェクト)



<牧村顧問によるご講演>

長い歴史と最先端のハイテクを駆使した大型製品を有する川崎重工での新製品開発は、多種多様な技術の蓄積と異文化を融合するシナジー効果で達成されていくことが良く理解できました。

あらためて、お忙しいところご講演頂いた河崎グループマネージャーと牧村顧問に御礼申し上げます。